



懇談会の魅力

園長 野中 泉

4月は、ほとんどのクラスで今年度1回目の懇談会がありました。アトム4年目の園長の私ですが、懇談会に出させてもらう度に、もっとアトムが好きになります。

ただ、他所でもアトムの懇談会とはどういうものですか？とよく尋ねられるのですが、「自分の子のことだけでなく、他の子のことも知れる」「子どものことだけでなく、保護者自身のことも語りあえる」と言葉を尽くしてみても、その魅力をなかなか上手く伝えることができずいつも歯がゆい思をしています。ただこれは、私だけではないようで、無認可保育所時代は懇談会を毎月していたアトムが、認可直後(20年前)には年間4回しか懇談会をしていない、その理由を前の園長(現理事長)にお聞きすると、懇談会を経験していない町立から移った保護者たちからそんなに回数が多いのは負担だと猛反発があり、お互い歩み寄った回数がやっと4回だったというのです。しかし、その初めこそ「形式ばった場ではないから、とにかく出てみて」と、半信半疑の親たちを半ば強引に誘った懇談会ですが、その場を重ねるうちに、「こんな話が聞きたかった」「もっと、話したい」と、その回数を増やしていったのも当初は猛反発をしていた親たちの方だったという話を聞き、やっぱりその魅力は経験してもらうことでしか伝わらないのだと妙に納得もしてしまいます。

今年4月のすいか組(4歳児)の懇談会で、担任が「みなさんにとって懇談会は、どんな場ですか？懇談会に来る理由は何ですか？」という投げかけをしました。すると、アトム歴が長いあるお母さんが「今日は、二日酔いで体調最悪なんだけど、昨日カメちゃん(川崎保育士)に明日頼りにしてるよって言われたから、これは這ってでもいかないかと思ってやってきた(笑)つまり懇談会は、私にとってそういう場です」と言って、みんなの笑いを誘いました。私も笑っていたのですが、心の中では「やられた！」と一本とられた思いでした。懇談会は、何をおいても行きたいと親自身が思ってくれる場所(わたしの場所)であり、自分が行って保育士を助けないとあかんと親たちが思ってくれる場(共につくる場)。そうそう、私が伝えたかったことは、こういうことだと思いました。別の保育士が「ひとりめの子の最初から、そう思える場所だったの？」と続けて聞きました。「全然、全く違う。他園でいろいろあって転園してきた私は、保育園のことなんて全く信用していなかったし、何も言わんといて、何も聞きたくないからって攻撃的だった。でも、最初に出た懇談会で私は保育園に期待していませんからって、自分のことを話したら、なんだか止まらなくなって泣きながらわーっと話して、それを他のお母さんたちがすごく親身に聞いてくれて。しんどかったんやなって声をかけてくれて。そこが、私のアトムのスタートやから」。

アトムの懇談会にまだ出たことがない人にその魅力を言葉だけで説明しようとするのは、やっぱり難しいことです。でも、同時に懇談会で出会うお母さんたちの言葉は、いつも雄弁にその魅力を伝えてくれる、これもまた、確かなことです。